

203 原料芋類

203-1 試料の採取

袋数に応じランダムに選んだ各袋より切干は約 300 g、生芋は 10 個ずつをランダムに抜きとって 1 カ所に集める。これを切干の場合は四分法により縮分を繰り返し約 500 g とする。生芋の場合にはその大きさにより大中小及び屑の 4 区分に分ち、各区分の個数に応じて全数 10 個程度となるようにとり、試料とする。この際 1 個を分かつ必要のある時は縦に 2~4 等分してその一部をとる。

採取した試料より直ちに検体を調製する。

203-2 検体の調製

203-2-1 切干の場合

適当な大きさに切ってから粉砕し、30 メッシュ程度のふるいを通したものを縮分し約 50 g をとり共栓びんに貯える。

203-2-2 生芋の場合

水で手早く洗い土砂等を除いた後、乾いた布で水気をよくふき取り、試料の各々を縦に 4 等分しその一片ずつをとり、薄刃の包丁で手早く 2~3 mm 角のサイの目に切る。これを直ちに広口びんに入れて密栓し、びんを回転してよく混合したものを検体とし、直ちに分析に供する。サイの目に切る代わりに磨砕機(少量の場合はおろし金)ですりつぶしても差し支えない。

203-3 デンプン価

201-4 による。ただし、生芋の場合は検体の採取量は約 5g とする。